

こごみ日和

98号



使用済てんぷら油からバイオディーゼル燃料、
そしてSAF〜持続可能な航空燃料へ
株式会社レポインターナショナル

「環境意識」を自分ごとに
村田機械株式会社

大切な洋服を次の形へ
京都光華女子大学 学生レポート

なごみ日和「泥団子左官」

もっぺん物語「クリーンマジック山科駅前店」

2R 及び分別・リサイクル活動
優良賞表彰

Upcycle!

長年愛用した衣類を京都紋付の
伝統ある黒染め技術で生まれ変
わらせる「黒染めサービス」。

株式会社 京都紋付
リウェアプロジェクト「K」



表紙デザイン
嵯峨美術大学デザイン学科
竹内デザインゼミ
石川涼雅 / 上野日向 / 松本愛純

使用済てんぷら油から バイオディーゼル燃料、そして SAF~持続可能な航空燃料へ

株式会社レポインターナショナル

こんがりきつね色のエビフライ。働く整備士、タラップから機体へ乗り込む人々——このユーモラスなビジュアルは、2023年春に発足した「Fry to Fly Project」のシンボル。Fry to Fly Projectは、その名の通り、揚げもの（fry）油で空を飛び（fly）、カーボンニュートラルな空の旅を目指すプロジェクトだ。そのメンバーの筆頭に「(株)レポインターナショナル」の名前がある。

京都の市民活動からスタートし、世界から注目される企業へと成長したレポインターナショナル。今回の特集では、同社のこれまでの歩みを振り返り、現在そして未来の燃料について考えてみたい。代表の越川哲也氏にお話を伺った。

京都発のバイオディーゼル燃料は、 市民活動から始まった

京都の街を走る市バス・ごみ収集車には、市民の使い終わった食用油（以下、廃食用油）を原料にしたバイオディーゼル燃料が一部使われている。これが他都市には類を見ない先駆的な取組だということを、意外にも京都の人は知らないかもしれない。その後全国に広がったこの取組、スタートしたのは1995年。29年前のことだ。

きっかけを作ったのは、当時自動車のレース業界に身を置いていた越川哲也氏。京都大学の故清水剛夫教授から「使用済てんぷら油から燃料をつくれる。その燃料を試してほしい」と依頼を受け、「やってみよう」と立ち上がった。処理に困っていた廃食用油を環境



越川哲也氏



市民回収の様子

ボランティア団体と共に集めて回り、精製して環境にやさしいディーゼル燃料へ生まれ変わらせた。この試みが京都市の目に留まり、本格的に動き出す。COP3で京都議定書が採択される前年、ちょうど同時期に発足した京都市ごみ減量推進

会議が活動に加わり、回収拠点は市全域へ広がった。越川氏らの市民団体はレポインターナショナル（以下、レボ社）として会社組織に改組。2004年にはレボ社の技術供与のもと、市直営の廃食用油燃料化施設が完成。こうして、京都の廃食用油のリサイクルは1997年以来途切れることなく続いている。

レボ社のバイオディーゼル燃料はEUへ

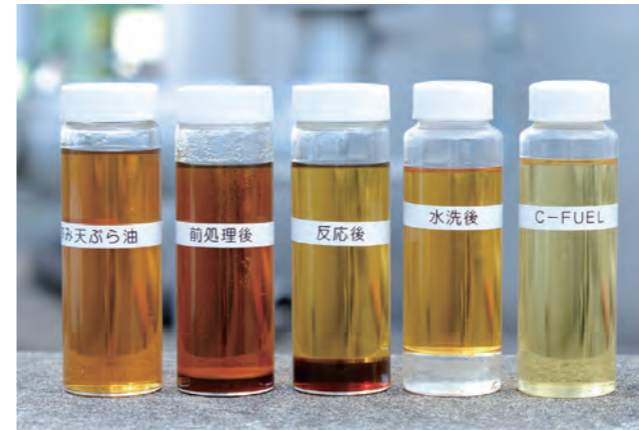
レボ社は活動の場を全国へ広げていった。安定した品質が評価され、低炭素化を目指す企業や団体の引き合いがあり、新たな自社プラントを建設。生産量は急増したが、軽油との価格差や流通の壁に阻まれることも多く、苦しい時期が続いた。一方で、早くからバイオ燃料の導入が義務化



2009年に建設された宇治田原の京都工場



Photo by Tatsuya Tanaka



廃食用油は不純物が取り除かれ、いくつかの工程を経て、クリアな燃料へ生まれ変わる

されたEUの需要が伸び、レボ社は輸出に活路を見出す。この十数年、京都産バイオディーゼル燃料の多くが海を渡りEUへ輸出されている。品質、持続可能性はEUの厳しい認証をクリア。改めて海外で高く評価される結果となった。

SAF~Sustainable Aviation Fuelとは？

近年は航空業界の脱炭素化が加速。「SAF」と呼ばれる、持続可能な航空燃料が世界中で求められている。微細藻類「ミドリムシ」や木質バイオマスなどが原料として注目されているが、GHG（温室効果ガス）削減効果や経済性の面で、廃食用油にアドバンテージがある。ここぞ、レボ社の出番。これまで愚直なまでに積み上げてきた経験と技術力が評価され、昨年、コスモ石油等と共同でSAF製造の新会社を立ち上げた。冒頭で紹介したFry to Fly Project以外にも、ANA、JALなども含めたアライアンスを複数締結。上場も果たし、レボ社はまさに破竹の勢いで成長している。

とはいえ、代表の越川氏はいたって平静だ。「日本の廃食用油は、残念ながら海外のSAF工場へ流れているのが現状。まずは廃食用油をしっかり集めて国産のSAFを作り、現実的な価格でエアラインへ供給したいと考えています。ですが、国内で出る利用可能な廃食用油は年間わずか約40万kL。一滴残らずSAFにしたとしても、政府が目標とする2030年170万kLの国内需要には届きません」と越川氏。廃食用油以外の原料を求めて、耕作不能地で栽培するジャトロファ*1の種子油、廃プラスチックから作る燃料など、未来を見据えて試行を繰り返している。

未来の燃料は？私たちの移動手段は？

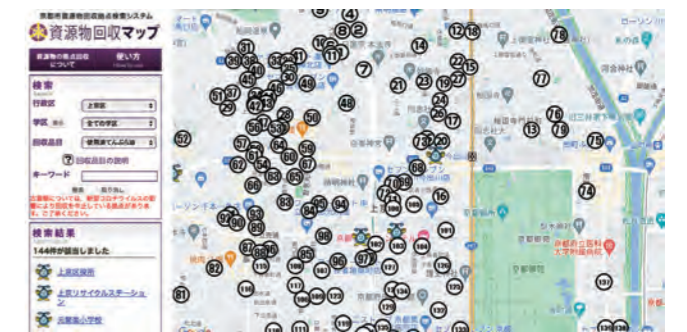
「SAF100%で空の旅ができる未来は来るのでしょうか？」素朴な疑問をぶつけてみると、「今の需要を代替燃料

で置き換えることはまず不可能」との答えが返ってきた。経済産業省のデータでは、2021年度の航空燃料の需要量は331万kL*2。ついでに紹介すると、すべての燃料需要を合わせると約1億5000万kLにのぼる。あまりの桁違いに頭がくらくらする。越川氏は「今の需要に合わせて石油の代替燃料を作るということではなく、あるものを循環させること、また何より作れるものに合わせた生活へ変えていかなくちやいけないと僕は思っています」と続けた。

私たちにできることは？

さて、このような現実を前に、私たちにできることはあるのだろうか。まずは台所にある貴重な食用油を見直すことから始めてみよう。使い終わった油を固めて捨てる…なんでもつたいないことはやめて、ぜひ回収拠点へ持って行こう。回収拠点は京都市のウェブサイト「資源物回収マップ」*3で確認できる。あなたの住まいの近くにもあるはずだ。近くになれば、市の支援を受けて自宅や地域のコミュニティに新たな回収拠点をすることもできる*4。

市によれば、回収できている廃食用油はわずか1/3。残りは何らかの形で廃棄されている。そして非常に残念なことに、回収量は下降の一途だ。バイオディーゼル燃料の先駆けである京都のこの現状は、あまりにもつたいない。私たちの貴重な資源＝廃食用油を余すところなく地域で循環させることができたなら、未来が少し見えてくる気がする。それはきっと、サーキュラーエコノミー（循環経済）を本気で実現させる第一歩になるはずだ。



例えば上京区には144の回収拠点がある

- *1 油脂を多く含む果実の成る低木。やせた土壌でも生育可能で、バイオ燃料の原料として関心が高まっている
- *2 第9回総合資源エネルギー調査会 資料2 2023~2027年度石油製品需要見直し(案)【燃料油編】参照 https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shigen_nenryo/sekiyu_gas/sekiyu_shijo/009.html
- *3 資源物回収マップ <https://www5.city.kyoto.jp/shigenmap/>
- *4 使用済てんぷら油回収団体等の募集について <https://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000061897.html>

株式会社レポインターナショナル

〒600-8090 京都市下京区綾小路通烏丸東入竹屋之町252-1 四条烏丸アーバンライフビル101
TEL : 075-353-2277 URL : <https://revo-international.co.jp/>





フジバカマ 準絶滅危惧種の藤袴を育成 アサギマダラの フォトコンテストで 「環境意識」を自分ごとに

(左から) 下田敏人さん・金子法子さん・松尾智彦さん



村田機械株式会社

村田機械株式会社は伏見区に本社を置く機械メーカー。西陣ジャカード機製作所として1935年に創業。現在は、祖業である繊維機械に加え、工作機械、デジタル複合機、通信セキュリティ機器、更には、自動倉庫や半導体工場向けのクリーンルームに対応したFAシステム*など、多岐に渡って日本の「ものづくり」を支えている企業だ。2023年4月からは新たなコーポレート・スローガン「革新の分岐点」のもと、これまで生み出してきた革新的な技術を振り返り、より具体的なイメージを育てて未来へ投射し新たな可能性に挑戦している。並行してCSRや環境マネジメントにも積極的に取り組んできた結果、2023年7月現在、本社事業所、吉祥院事業所、犬山事業所、伊勢事業所などでISO14001を取得している。業務支援本部総務グループEMSチーム（以下、総務G-EMSチーム）の下田敏人さん、金子法子さん、松尾智彦さんにお話を伺った。

*FAとはファクトリーオートメーションの略。コンピュータ制御技術により生産工程の自動化を図るシステムの総称。

社内美化活動と環境活動の一石二鳥「チョット傘」

村田機械株式会社は、国際標準化機構（ISO）の環境マネジメントに関する国際標準規格である「ISO14001」を各地の事業所で取得。社内では、ISO14001マネジメントシステムの一環として、社員が主体となり廃棄物、資源、エネルギー、地域美化緑化の4つの部会を展開している。具体的には廃棄物の削減、資源の有効利用、電力消費量の削減、構内美化活動など、企業活動における環境負荷低減に取り組んでいる。その中心となっているのが前出の総務G-EMSチームだ。

「地域美化緑化部会」では、京都市まちの美化推進事業団による定例の清掃活動「油小路通美化活動」へ参加している。また、

ISO14001とは

ISO14001（環境マネジメントシステム：EMS）とは、組織が自社で設定した環境に関する方針や目的に整合して、事業活動やその結果生まれる製品・サービスが環境に及ぼす影響を管理することで健全な環境パフォーマンスを達成し実証できるようにする仕組みの構築を目的とした規格。経営に環境の要素を取り入れ、環境問題意識とその対応を行うことで環境、社会および経済という持続が必要な三本柱のバランスを維持しPDCAサイクルを運用することが大きな狙い。

美化活動の一環として生まれたのが「チョット傘」。毎年「置き傘クリーン作戦」を行い、持ち主がわからなくなった傘を一掃。回収された傘を廃棄せず「チョット傘」として設置することで、突然雨が降っても濡れずに社内を移動でき、来客や社員に大変喜ばれている。「事業所の建屋間を移動するときちょっと使えるので社内でも好評なんです」と金子さん。本社だけでも11ヶ所に設置されている。もともとは本社での取組だったが、今では他の事業所にも広がっている。取材した当日も、家庭での不要な傘についての話題が出ると「従業員の家庭で不要になった傘を提供してもらってもいいですね」と金子さん。日頃からこうしたアイデアを逃さず、次々に実践しておられることが窺える。



急な雨でもちょっと使えて安心のチョット傘

落ち葉を堆肥化した腐葉土で原種フジバカマの育成が目標

本社の敷地内には約30種類の植物がある。その一つが「フジバカマ」だ。実は、現在、フジバカマと称して市販されているのはフジバカマとサワヒヨドリ種の雑種。京都由来の準絶滅危惧種である大原野原種のフジバカマを挿し芽で増やしたものを保

存する「源氏藤袴会」の協力のもと、村田機械株式会社では、2022年6月からこのフジバカマの原種の育成を開始。挿し芽に苦戦しながらもついに育成に成功した。総務G-EMSチームは構内美化や清掃を担当する聴覚障害のあるメンバーからなる環境

整備室の皆さんと協力し、清掃時に集めた落ち葉で腐葉土作りをスタート。これまでは、フジバカマ育成に欠かせない腐葉土は購入していたが、今後は敷地内の落ち葉から自前の腐葉土を作り、活用する試みだ。「一度、ごみと間違えられて『タヒロンガーデンバッグ』の落ち葉を廃棄されてしまうハプニングがありました。今年の8月に集めた落ち葉がゆっくりと堆肥化しています。来年使用できるのが楽しみです」と金子さん。

そのほか、上賀茂神社の葵祭で使用される多年草「フタバアオイ」を救うべく「葵プロジェクト」にも参加。激減するフタ

バアオイの里親となり数を増やし、再び上賀茂神社へ奉納（里帰り）している。驚いたのは、こちらも総務G-EMSチームと環境整備室が協力して行っていること。一般的にイメージされる業務の垣根を越えた取組、そして、京都ならではの生物多様性に取り組んでおられるのが印象的だった。

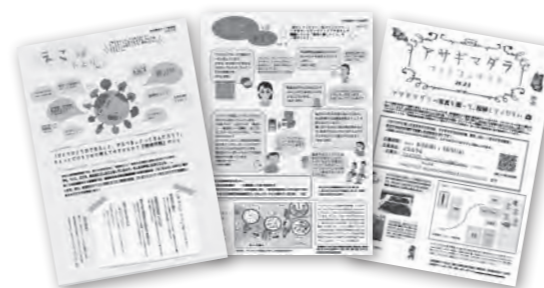


原種のフジバカマ

一人ひとりの環境意識向上のため『えこたより』を発行

ISO14001では、具体的な活動に加え、従業員一人ひとりが環境についての意識を持つことがカギとなる。2022年から独自の環境関連情報『えこたより』の発行をスタート。「従業員には本業があり、『環境活動への参加』のハードルは決して低くない。その

ハードルを取り払いたいという思いから、まずは様々な「環境問題」に関する情報に触れる



環境に配慮した新作業服の着用がスタート

30年以上デザインを変えず、社内はもちろん、取引先にも親しまれてきたムラテックの作業服が環境に配慮した新作業服として今年リニューアル。村田機械株式会社が開発した精紡機から生み出される糸のブランド「VORTEX」と、伊藤忠商事株式会社が展開するリサイクルポリエステル「RENU®」とのコラ

ボレーションで生まれた生地を使用。交換・返却されたあとは産業素材としてリサイクルされる。



鮮やかなブルーが目目を惹く新作業服

清掃が行き届いた環境が「意識」に浸透

「本業で忙しい従業員たちに、活動を浸透させていくことがなかなか難しく、現状の課題でもあります」と金子さんがおっしゃるように、たしかに環境意識について言葉で伝えるのは難しい。しかし、会社を見学したところ、建屋内はもちろん、屋外の敷地は美しく驚いた。廃棄物の分別スペースは、清掃が行き届いているため資材置き場と見間違えてしまうほど。この美しさを保っているのは、従業員それぞれの協力はもちろん、環境整備室のみなさんの努力の賜物。清掃だけでなく、フジバカマやフタバアオイを育てるための土の整備も担っているため、環境整備室は環境推進の要といえそう。この美しく保たれた環境こそが、従業員の環境意識の向上に一番繋がっているのではないだろうか。きれいに整備された社内と、総務G-EMSチームのまっすぐな姿勢に、訪れた私たちも背筋が伸びた。



総務G-EMSチーム下田さん、金子さんと、環境整備室の皆さん
前左から：鈴木さん、曹さん、中央左から：森さん、西田さん、田中さん

村田機械株式会社

〒612-8418 京都市伏見区竹田向代町136

TEL : 075-672-8111 FAX : 075-672-8691 URL : <https://www.muratec.jp/>



大切な洋服を次の形へ

衣類の廃棄問題

安くておしゃれな洋服は、私たちの日常を華やかで豊かなものにしてくれる。しかし、華やかなイメージとは裏腹に、ファッション産業は近年、世界第2位の環境汚染産業と言われている。その理由には以下の3つが挙げられる。

一つ目は水質汚染である。洋服を一着作るのに必要とされる水は2,300リットル^{*1}とされており、工場周辺の地下水や河川などの水質悪化が問題となっている。二つ目は、CO₂の大量排出である。その原因は衣類製造時の電力エネルギーや輸送時に船や車から排出されるガス、廃棄時の焼却によるものなどである。日本総合研究所の資料^{*2}によると、日本国内に供給される衣類から排出されるCO₂は9,500万トンと想定され、そのうち47%は原材料調達から輸送までの衣類製造段階、つまり消費者の手に渡る以前の段階で発生している。これらも気候変動や異常気象に影響を及ぼす要因のひとつと考えられている。三つ目は、大量の衣類廃棄である。一人当たり年間約15枚の衣類を廃棄するとされており、廃棄された衣類の約95%は焼却されている。この衣類廃棄とCO₂排出は、私たちの生活に最も近い問題である。

筆者は、大学のゼミで、廃棄予定の繊維素材を用いた商品づくりに関わった。そこで、裁断くず、製造ロス、サンプル品など、普段の生活では目にする事のない、繊維製品の製造過程で発生する繊維廃材があることを知った。また、さまざまな企業が繊維廃材を有効活用し、新しい製品にリサイクルする取組をおこなっている^{*3}が、ポリエステルやナイロン、綿、羊毛など様々な素材の衣類を手作業で分類することの難しさ、また衣類の分別にはボタンやファスナーなどの付属品を除去する必要があること、さらにはリサイクルにかかるコストによる製品価格の上昇などの課題があることもわかった。

「繊維廃材で楽器を創作する分科会」の活動

2022年10月、一般社団法人日本繊維機械学会繊維リサイクル技術研究会において“繊維廃材で楽器を創作する分科会”が発足し、そこで生まれる新たな楽器を披露する楽団「Fiber Upcycle Band」(通称FUB)を結成した。FUBにはベースギターやバイオリン、ドラムなどの楽器を担当する15人の分科会メンバーが所属しており、繊維廃材から創作する楽器を用いて演奏活動をおこなっている。試作中の楽



FUB演奏の様子

器には、テント生地を使用した太鼓や、古着の繊維とポリプロピレンを融合したペレットを入れたマラカスなどがある。現在、廃棄素材を用いた楽器のアイデアを一般公募しており^{*4}、優秀な作品は実際に制作し、演奏にも使用する予定である。



テント生地を使用した太鼓

バンドマスコットキャラクター「FUB博士」

筆者は、FUBメンバーの1人でもあるゼミ教員の誘いによって、バンドのマスコットキャラクターのデザイン制作を担当することとなった。そこで、分科会の活動を、より多くの人に知ってもらい、子どもたちにも親しみを持ってもらえる活動にしたいという思いから、繊維リサイクルに精通した先生のような存在として「FUB博士」を提案した。



- ファブ博士**
1. ファブ博士のボディには、FUBのロゴモチーフが隠れています。
 2. FUBの活動をいつも冷静に分析し、理論的見解を持って見守っています。
 3. 子どもたちのままで、わかりやすく繊維リサイクルのことを伝える使命を感じています。
 4. 「木綿のハンカチーフ」に、青春の思い出を持っており、いつもポケットに木綿のハンカチーフを忍ばせている。

FUB博士は、博士としての使命感や冷静さの中に少しチャーミングな性格を持ち、優しくわかりやすく繊維のアップサイクルについて解説してくれる。またFUB博士の体には「F」「U」「B」のロゴモチーフが隠れており、リサイクルや環境を象徴する緑色の髪の毛を特徴としている。今後、バンドの演奏やイベントなどと共に、繊維リサイクルについて、子どもから大人までわかりやすく説明する印刷物などに取り入れ、リサイクルへの意識向上に向けた活動に活用されることを願っている。

参考文献等

- ※1 環境省 SUSTAINABLE FASHION これからのファッションを持続可能に https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/ (閲覧日2023年11月19日)
- ※2 環境省 令和2年度 ファッションと環境に関する調査業務-「ファッションと環境」調査結果- https://www.env.go.jp/policy/pdf/st_fashion_and_environment_r2gaiyo.pdf (閲覧日2023年11月21日)
- ※3 経済産業省 生活製品化繊維製品と資源循環システムをめぐる現状と課題 https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/fiber/pdf/23012003-2.pdf (閲覧日2023年11月12日)
- ※4 「廃棄素材で楽器をつくらう」アイデア募集についての詳細は、当会議ホームページ「他団体からのお知らせ」<https://kyoto-gomigen.jp/news/45.html>をご覧ください。

濱中真心 (京都光華女子大学 キャリア形成学部)
(2023年11月執筆)

なごみ
日和



KBS 京都 アナウンサー
うみひら なごみ
海平 和

●● 第40回「泥団子左官」 ●●

左官職人の仕事をご存知でしょうか？建物の壁や床、土塀などにコテを使って土や漆喰を塗り、壁を作るという日本が誇る伝統技術で、2020年にはユネスコの無形文化遺産にも登録されています。ですが、時代と街並みの変化で、その材料となる土がとれる場所も、塗る場所も減っているのが現状です。

そんな中、土壁の魅力をより多くの方に知ってもらいたいと活動されているのが、長岡京市で左官業を営む「三谷左官店」

海平 和：京都市出身、2010年KBS京都入社。テレビ「京biz」、ラジオ「ファミリーレストランと海平和のめっちゃうま」などに出演。

の三谷涼さんです。全国的にも質が高いとされる京都の土を中心に、自ら土を収集し、顧客のイメージはもちろん、気候によっても、使う土、加える砂や藁の配合を調整していきます。約1000種類のコテを使い分けながら塗っていく職人技に見とれてしまいます。三谷さんは、土を口に含み、その特徴を舌触りで確かめることも多いそうです。

そして工房には、使った土の残りが団子状にまるめられたものがたくさんストックされています。それらは、三谷さんが泥団子ワークショップで使用しているものです。左官職人が漆喰を塗っていくのと同じ工程で、泥団子に漆喰を塗り磨くことで、まるで鏡のように光ってきます。2年ほど前から、このワークショップを通して700人以上に土壁の魅力を伝え続けている三谷さんは、日々自身の技術を磨きながら、左官職人の技が広く知られることを願っています。



人と物と。織りなす「もっぺん」物語



第 27 回

クリーンマジック山科駅前店

洋服の丈やウエストが合わない、裾がほつれてきた…。でもいいやこのままで。直すのも面倒だし、新しく買ってもいいかな。と諦めている服はありませんか？買い替えるという選択肢以外に、「お直し」という方法もあります。

今回取材したのは、山科駅から徒歩からほど近い「クリーンマジック山科駅前店」。クリーニング屋さん「お直し工房」が併設されています。クリーニングのお客さんがそのまま相談に来ることも多いのだとか。「昔気に入って着ていたけれど、胸元のレースを取って欲しい」「ロングコートをショートにして欲しい」など、長く着用したいからこそその要望もあるそうです。確かに年齢と共に、似合う服が変わってきたり、微妙に体型が変化したりしますよね。

クリーニング部門は、環境に優しい「シャボン玉石けん」を使用していることが特長のひとつです。家では水洗いづらい洋服も「アクアトリートメント(汗抜き水洗い)」で長持ちします。さらに、ハンガーは回収システムが導入されていて、回収されたハンガーは綺麗に消毒され、何度も使用されます。山科駅前店の回収率は非常に高いそうです。

洋服を大切に、長く着るためにまずは日ごろの手入れが重要です。衣替えでタンスにしまう前にクリーニングに出してみれば、そして、「もう着られない」と諦める前に、お直しのプロに相談して、お気に入りの服を「もっぺん」蘇らせてみませんか。



お直し工房の蛸原(えびはら)さん



(左から)クリーニング部門の佐藤さん、梅田さんと蛸原さん



色鮮やかな店構えが目目を惹く

▶クリーンマジック山科駅前店

〒607-8085 京都市山科区竹鼻堂ノ前町8番地8
TEL: 075-583-6162 URL: <http://www.elze.co.jp/>
営業時間: 月~土 9時-20時 / 日・祝 9時-19時 定休日: 木曜日・正月・お盆

地域活動レポート

～ 2R 及び分別・リサイクル活動優良賞表彰～

2R活動等の功績を称えて 7事業所を表彰

京都市では、時代の動きに即したごみ減量対策として、平成24年度から2Rをはじめ、分別・リサイクル活動に前向きに取り組む事業所を認定する制度を設け、循環型社会構築への施策を展開してきた。

令和5年度からは、この施策をさらに前進させ、認定事業所の拡大とともに、年度ごとの表彰制度を導入しスケールアップ¹。

表彰制度は影響力を持つ。表彰されれば功績となり、惜しくも受賞を逃した事業所には今後の励みともなる。今年度、18認定事業所からの申請を受け、選考により栄誉に輝いたのは7事業所。令和5年11月8日（水）、2R等の取組報告とともに表彰式²が行われた。紙面に2事業所の事例を紹介する。

紙の使用量を管理強化し減量を実現

学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校³

学校運営には欠かせないコピー用紙なのだが、年度ごとの削減実績には目を見張る。職員一人ひとりの紙の使用量を把握し、毎月出力枚数を管理、前年同月に比べ増えた場合は、要因を把握し改善を加えた。2020年度は206,958枚、21年度は20,986枚減量（いずれも前年比）を記録。また、分別において、紙製容器など判断が難しい雑がみについては、「雑がみ図鑑」⁴を参考に独自の表示を作成。分別ボックスに掲示するなど徹底策をとった。減量は一枚から。その意識が成果をもたらした事例と言える。



紙の使用枚数の減量成果をデータで報告する大和学園

使用済みのアメニティを医療機関で再使用

ホテルオークラ京都⁵

環境宣言を掲げ、プラスチック製品利用縮小にも前向きに取り組むホテルオークラ京都の事例は、先進的でユニークだ。宿泊客による使用済みのヘアブラシや櫛を医療機関のADL（日常生活動作）⁶のリハビリツールとして活用。洛和会音羽リハビリテーション病院に提供、同病院が殺菌消毒を行い、その後、作業療法のメニューとして筋力向上や

寝たきりの方の自立に向けた訓練に使用している。髪を整えることで、体の動きが改善し、会話が弾むなどの成果が見られるという。ホテルと医療機関、異業種によるごみ減量への取組は、今後の2R活動の可能性を示唆する事例でもある。

2Rは、リデュース、リユースの2つのごみ減量対策。3Rの広がりの中でリサイクル先行のごみ減量から、より環境負荷の低いリデュース・リユースの取組強化は重要な課題である。

今回の表彰は、ごみ減量に取り組む事業所にとって活動推進へのモチベーションともなるにちがいない。



授与された表彰状を手に7事業所が揃って記念撮影

◆「2R及び分別・リサイクル活動優良賞」受賞事業所

- 学校法人大和学園
京都調理師専門学校 京都製菓製パン技術専門学校
- 学校法人大和学園 京都ホテル観光ブライダル専門学校
- 日本たばこ産業株式会社 関西工場
- ホテルオークラ京都
- ホテル日航プリンセス京都
- リード株式会社
- GOOD NATURE STATION
(GOOD NATURE HOTEL KYOTO)

注釈

- 1 2R及び分別・リサイクル活動優良事業所認定制度及び表彰について
<https://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000311972.html>
 - 2 令和5年度「2R及び分別・リサイクル活動優良賞」受賞事業所
<https://kyoto-kogomi.net/bps/2rexr5/>
 - 3 ホテル・観光・ブライダル業界のプロを目指す人のための専門学校
 - 4 京都市が作成した雑がみ分別のためのツール
<https://kyoto-kogomi.net/downloads/雑がみ図鑑/>
 - 5 京都市の中心部に位置し、創業135年の歴史を持つホテル
 - 6 Activities of Daily Livingの略。人が生活していく上で最低限必要な日常的な動作（食事・整容・更衣・排尿・排便・入浴など）
- 森田知都子（2023年11月14日取材）



『わたしのごみ減らし術』 ▶ 割り箸が紙に。これが再生のかたち。

お持ち帰りの弁当などに付いている割り箸。捨てるに捨てられず、処理に困っていませんか。割り箸はリサイクルできます。中越パルプ工業(株)では紙の原料として回収。未使用はもちろん、水洗いして良く乾燥させれば使用済みの割り箸も送料自己負担で受け付けてくれます。少量であれば竹箸も可。塗り箸、プラスチック箸は不可。3膳でハガキ1枚、A4サイズのコピー用紙1枚に。<https://www.chuetsu-pulp.co.jp/> (北区 Mさん)

